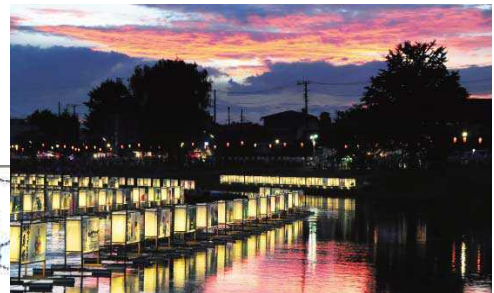


杉戸町学校評価システムの 構築に向けて

学校・家庭・地域が一体となって、
信頼を基盤とした
魅力ある学校づくりを目指して

杉戸町教育委員会

杉 戸 町



学校評価

- 平成19年
学校教育法
学校教育法施行規則等 改正

自己評価の実施と公表
学校関係者評価の実施と公表
自己評価結果及び学校関係者評価の
設置者への報告

学校評価の目的

- ①学校として組織的・継続的な改善
- ②学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり
- ③教育の質の保証と向上

学校評価の実施方法

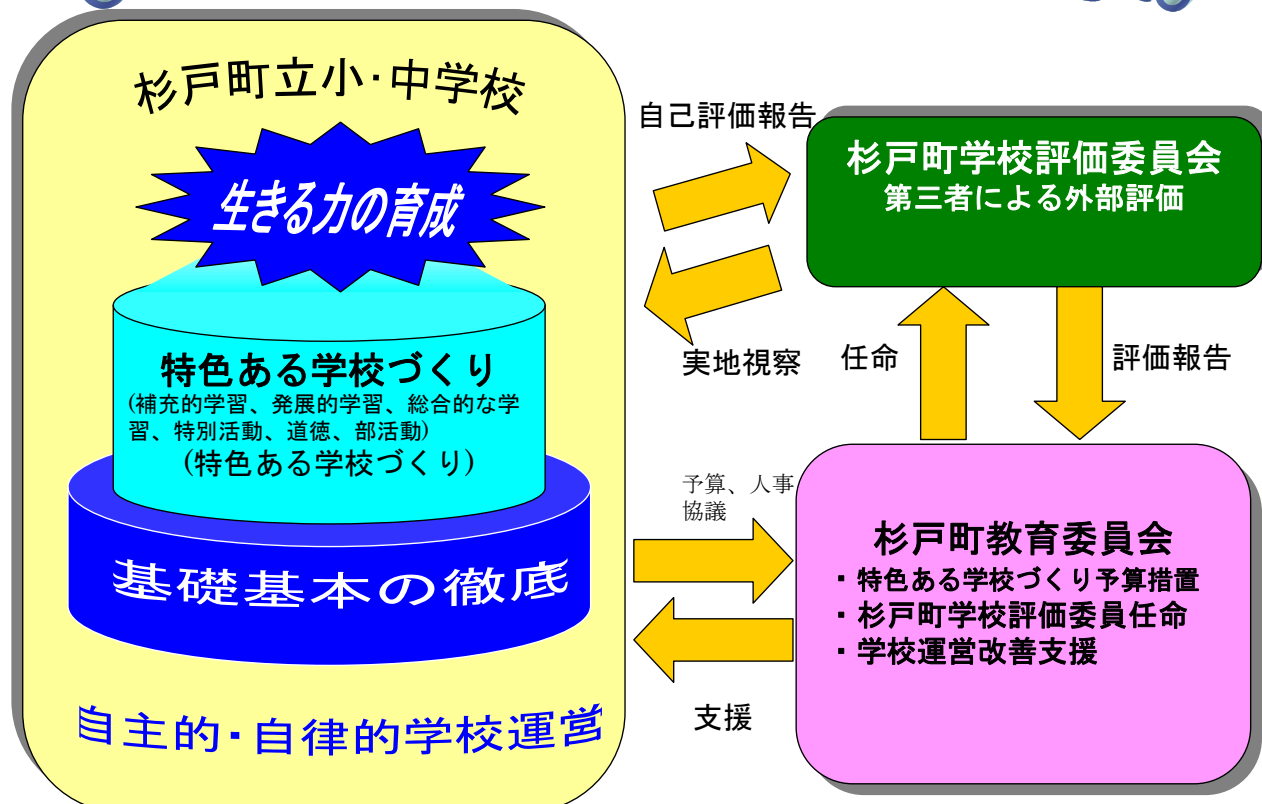
- ①自己評価
- ②学校関係者評価
- ③第三者評価

杉戸町

これまでの学校評価の取組

- 自己評価期(～H18. 3)
↓
- 第三者評価実施期(H18. 4～H. 22. 3)
↓
- 学校関係者評価試行期(H22. 4～H23. 3)
↓
- 学校関係者評価実施期(H23. 4～)

Original Active School in Sugito



平成18年度～ 第三者評価の実施

杉戸町学校評価委員会を設置

学校評価委員の内訳

〔 大学教授等研究者 小・中学校長経験者
学校評議員 PTA役員 〕

平成18・19年度 3校

平成19・20年度 4校

平成20・21年度 2校

全小・中学校9校での実践

全校共通の

「学校評価シート」による自己評価

①学校における教育の状況

②特色ある学校づくり

③学校の組織運営の状況

④保護者・地域住民との連携の状況

4分野
18項目

+

記述欄(本校の現状・基本方針・重点的な取組事項)

実地視察

- 評価委員会の実地視察…年度に2回(5月、1月)

具体的な解決策を提案することが目的

* 査察という観点ではなく、学校の応援団

* 結果重視の評価がねらいではない

自己評価 + 第三者評価 の成果

- 第三者評価により、学校のよさと改善課題が明確になった。
- 教職員の学校改善に向けての意識が高まった。

課題

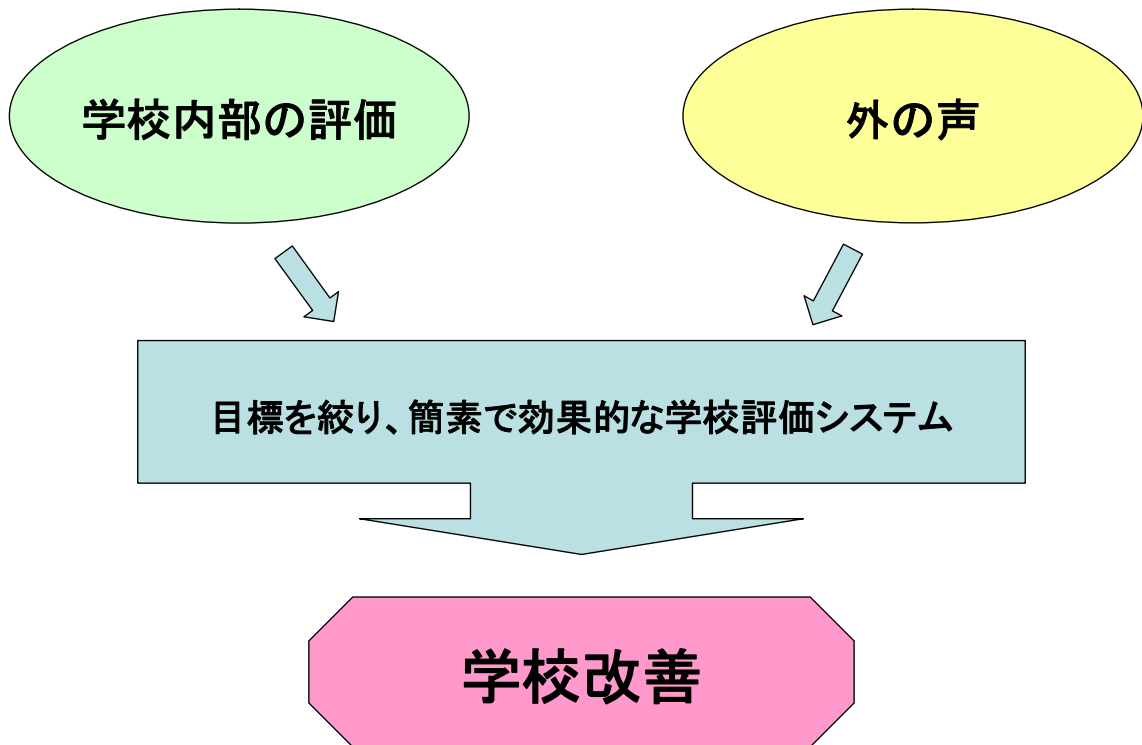
- ・ 評価項目がやや抽象的、羅列的
→達成できたかどうかの評価がしにくい
- ・ 学校の取組情報を保護者や地域の方に分かりやすく公表できていなかった
- ・ 実施に当たって、詳細な資料の準備等が必要
- ・ 評価の項目、評価内容が多岐に渡り学校が対応しきれない
- ・ 評価に2年を要し、町内全校を評価し終えるのに4年必要になる
(学校によっては、評価開始が3年後になってしまう。)

学校評価検討委員会の取組

平成22年度

杉戸町学校評価システム構築に向けた原案づくり及び検討

- ・ 杉戸町における学校評価のテーマ
- ・ 杉戸町における学校評価の実施方法
- ・ これまでの杉戸町小・中学校における評価について
- ・ 自己評価、学校関係者評価の流れ
- ・ 評価報告書の様式
- ・ 評価委員の構成
- ・ 杉戸町学校評価実施要綱の検討・作成
- ・ 先行実施校の選定



学校評価を学校・家庭・地域のコミュニケーション・ツールとして活用

- ①保護者や地域住民の学校運営への参画
- ②地域に信頼される開かれた学校づくりのより一層の推進

杉戸町における学校評価のテーマ

学校・家庭・地域が一体となって、
信頼を基盤とした魅力ある学校づくりを

杉戸町における学校評価の実施方法

自己評価
～教職員による評価～

学校評価の最も基本となるもの
校長のリーダーシップの下、全教職員が参加し、保護者・児童生徒・地域等へのアンケート結果等も参考に、設定した目標や具体的方策に照らして、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等において評価を行う。



学校関係者評価
～保護者・地域住民等による評価～

自己評価の結果について評価する
保護者・地域住民等の学校関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価する。

自己評価の進め方

ポイント1

重点化された具体的な目標の設定

ポイント2

PDCAサイクルによる自己評価

学校関係者評価の進め方

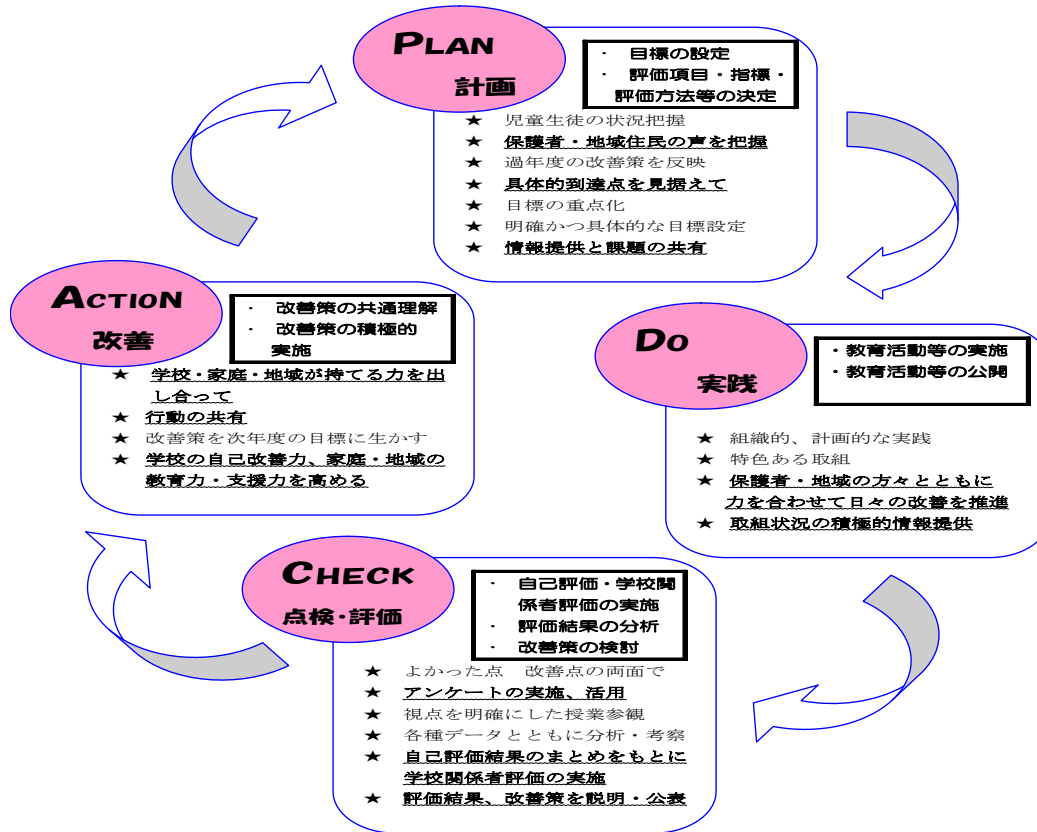
ポイント1

自己評価を踏まえた学校関係者評価

ポイント2

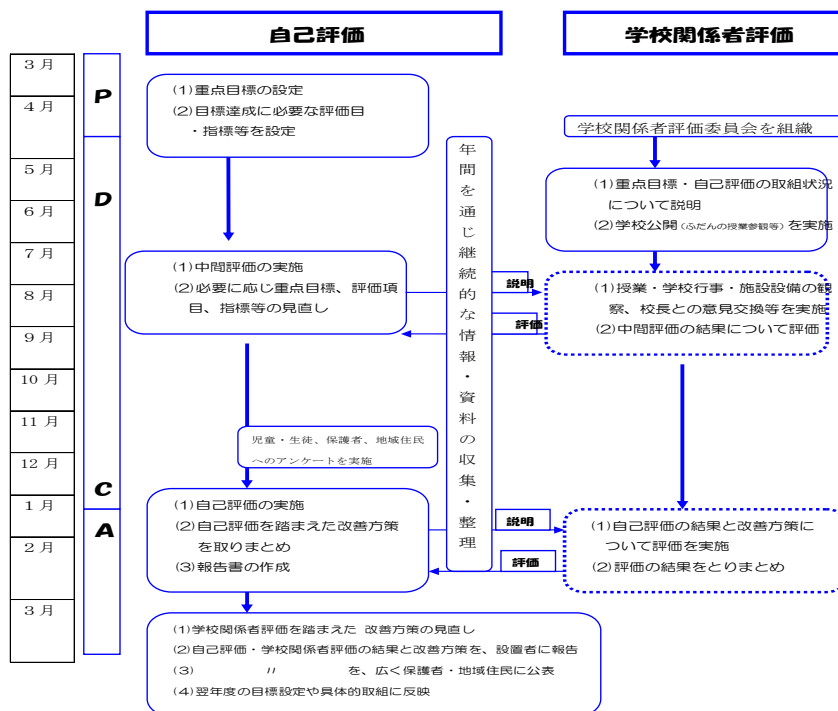
主体的・能動的な評価活動

《杉戸町学校評価システム》



平成 年度学校評価計画 学校が主体：実線 学校関係者評価委員会が主体：点線

◎ 学校は、学校の教育目標実現に向けたPDCAサイクルに則り学校運営を行う。
 ◎ 特にC（評価）の客観性を高め、A（改善）の方策を検討する場面で学校関係者評価を位置づけることが大切。



自己評価の実施

(1) 学校評価委員会の設置



(2) 年間評価計画の作成



(3) 評価項目・指標等の設定



(4) 自己評価の実施

(1) 学校評価委員会の設置

各学校に「学校評価委員会」を設置

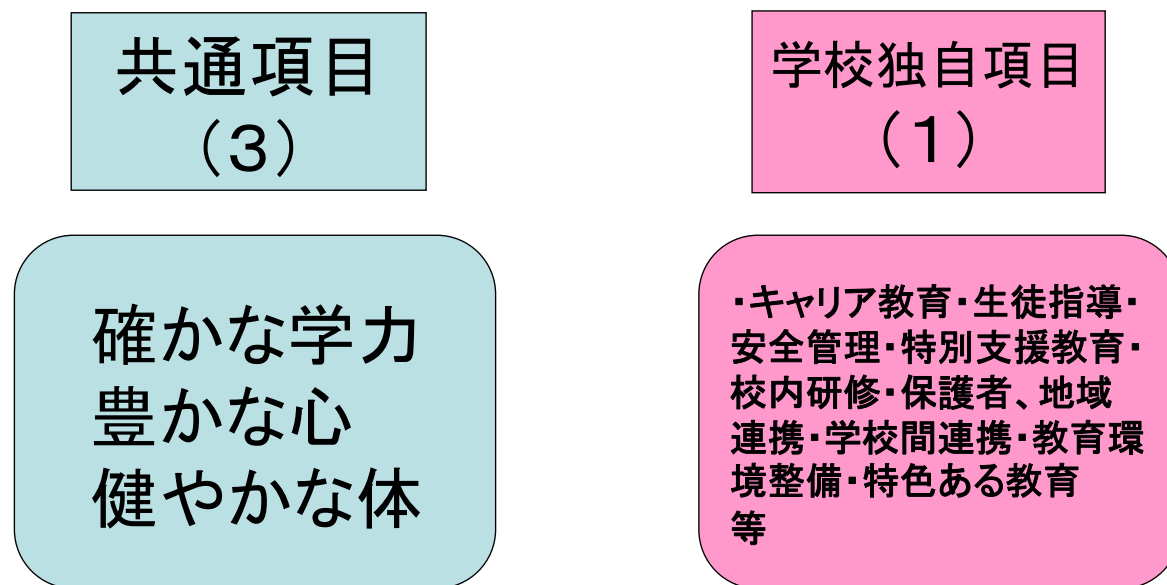
- ・年間を通して活動
- ・計画的・組織的・継続的に
- ・校長、教頭、主幹教諭等を中心に

(2) 年間評価計画の作成

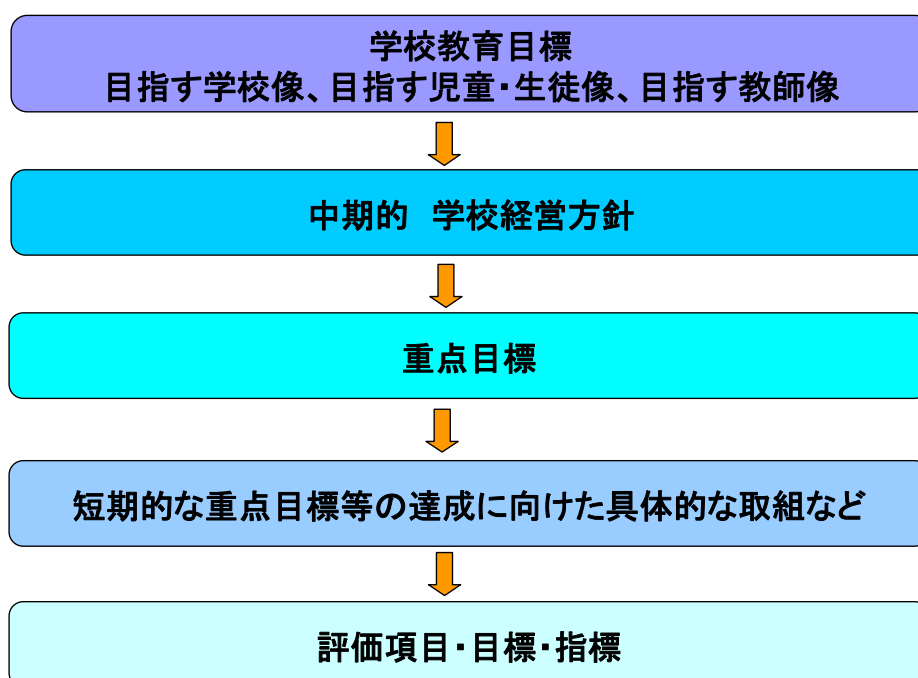
自己評価、学校関係者評価を
計画的に、適切に行うために

(3) 評価項目・指標等の設定

① 評価項目



② 明確な目標の設定・教育計画の立案



③目標及び方策

○目標

- ・1項目につき目標は1～3程度設定

○方策

- ・具体的に
- ・達成状況の把握できる指標の設定
- ・教職員が意識的に取り組むことが可能な程度に精選する
- ・学校関係者評価の評価者や、一般の保護者が理解できるように

(4)自己評価の実施

- ・評価は4段階
- ・達成状況(成果と課題)は記述
- ・児童生徒・保護者を対象とするアンケート等の結果を活用する
- ・中間評価を実施し、その結果に基づき重点目標、評価項目・指標等を見直すことも

自己評価の結果及び今後の改善方法について報告書にとりまとめる。

提出

学校関係者評価委員会

学校関係者評価の実施

(1) 学校関係者評価委員会の設置



(2) 重点目標及び自己評価の取組状況等の説明



(3) 授業や学校行事の参観、施設・設備の観察、校長など教職員や児童生徒との対話



(4) 学校関係者評価報告書の作成

(1) 学校関係者評価委員会の設置

自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が共通理解を持ち、その連携協力により学校運営の改善に当たる

委員の構成

学校評議員、保護者、地域住民
教育に関する理解及び識見を有する者
その他学校が必要とする者

委員は、10名以内

任期は、委嘱の日から当該年度末まで

(2) 重点目標及び 自己評価の取組状況等の説明

- ①重点目標など具体的な目標や計画
- ②本年度の自己評価の評価項目などの取組状況
- ③前年度の自己評価・学校関係者評価の結果及びそれらを踏まえた改善の状況

(3) 授業や学校行事の参観、施設・設備の観察、校長など教職員や児童生徒との対話

- ① 評価のポイント、重点目標及び評価指標(具体的な取組事項)を意識して参観や観察をしていただく。
- ② 参観、観察等を通じて、学校関係者評価委員会と学校との間で十分な意見交換や対話を行い、学校の状態について相互の共通理解を深める。

(4) 学校関係者評価報告書の作成

- ① 学校関係者評価委員による評価
評価は4段階
意見・要望・支援策等の記述
 - * 自己評価の結果の内容が適切かどうか
 - * 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
 - * 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
 - * 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか年度途中に中間評価を実施することも考えられる
- ② 学校関係者評価委員会は、その評価結果をとりまとめる
- ③ 学校は、学校関係者評価の結果を踏まえ、自己評価の結果に基づく今後の改善方策を見直し、評価の結果と今後の改善方策を併せて報告書にとりまとめる

杉戸町立 小中学校 平成 年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (目標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	本年年度の重点となる項目を1~3程度目標として設定する。	目標に達成のための具体的な取組を書き込む。	評価の指標となる事項を記入する。					
豊かな心		目標毎の評価を4段階で評価 A:大変良い(かなり達成) B:良い(ほぼ達成) C:あまり良くない(やや未達成) D:良くない(かなり未達成)		目標毎の評価を総合して、項目を4段階で評価する。				
健やかな体								
学校独自								

杉戸町立 A小学校 平成 年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎・基本の定着	〇〇タイムの充実 ・漢字力、計算力テストの実施 ・授業でのつまづき解消 ・家庭学習の習慣づけ	漢字力・計算力テスト結果の伸び ・「学力3つの達成目標」効果の検証結果 ・家庭学習の定着、家庭への発信啓発状況					
豊かな心	読書活動の推進	・コミュニケーション能力の育成を目指す校内研修の充実 ・コミュニケーションタイムの設定・実施 ・国語科の「話す・聴く」単元の授業研究 ・全教科「学び合う授業」の実践	「話す」「聴く」力の習得状況 ・授業研究の状況 ・「学び合う」授業の状況 ・児童アンケート					
豊かな心	読書活動の推進	・朝読書の確実な実施、読み聞かせの充実 ・読書指導の充実と図書室の活用 ・家庭読書の推進	児童の読書冊数 ・図書室の貸出し状況 ・朝読書、読み聞かせの実施状況 ・家庭への発信状況					
豊かな心	道徳教育の充実	・真剣に考える道徳授業の実践 ・すべての教育活動の中で道徳教育を実践 ・「道徳コーナー」を設ける	児童アンケートの結果 ・学校における道徳指導計画の立案・振り返り・確かな実践状況 ・「道徳コーナー」の活用					
健やかな体	運動能力の向上	・めあてを持って一人一人を伸ばす体育授業の実施 ・学習カードの活用 ・駅マラソンの実施 ・〇〇タイムの充実	運動能力テストの結果 ・なわとび、逆上がり、持久走、水泳等の自己記録更新率 ・児童アンケート					
健やかな体	食育の推進	・給食指導の充実 ・栄養教諭とのT.T. ・保護者への啓発	給食摂取量の減少 ・朝食欠損児童の減少 ・児童アンケート					
学校独自	特別支援教育の充実	・支援を必要とする児童の把握 ・校内委員会の確実な実施と機能 ・個別の指導計画の作成と支援の充実 ・校内研修会の実施、指導力の向上	児童の実態に応じた支援の実施状況 ・校内委員会の定例化の状況 ・個別の指導計画の作成と活用状況 ・教員の意識調査					

A小学校 の例

前年度の評価結果、本年度の児童の状況から各項目毎重点として取り組む課題を設定し、目標・具体的取組・指標について全職員、評価委員に示す。

報告書の提出

学校は、自己評価と学校関係者評価の結果及び今後の改善方策についての報告書を設置者に提出する

次年度への準備

学校は、改善方策に基づき、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図る

公表について

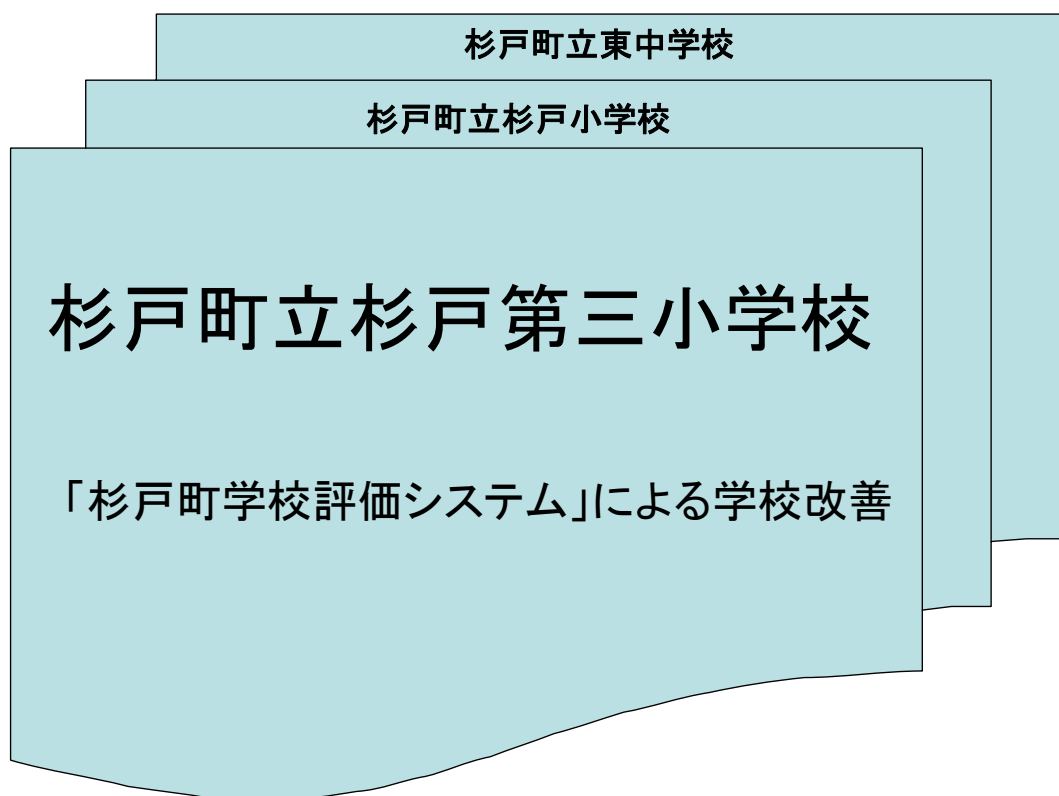
学校は、自己評価及び学校関係者評価の結果並びにそれらを踏まえた今後の改善方策について、広く保護者等に公表する

学校だより、ホームページ、懇談会などの機会に説明 等

杉戸町教育委員会として

- 「杉戸町教育委員会学校評価実施要綱」制定
- 「杉戸町立小・中学校学校関係者評価委員会設置要綱」制定
- 杉戸町学校評価システムのガイドブック作成、配布
- リーフレット「評価委員になられたみなさまへ」作成、配布
- 学校評価推進委員会の組織、運営

平成23年度・先行実施校の取組



平成23年度学校評価シート

杉戸町立杉戸第三小学校 平成23年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況(成果○・課題●)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の充実 漢字力、計算力チャレンジテストの実施 少人数、TT指導の実施 授業のつまずき解消 家庭学習の習慣づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字・計算チャレンジテスト結果の伸び 「学力3つの達成目標」効果の検証結果 家庭学習の定着、家庭への発信啓発状況 子どもの学び合う姿の状況 	A	<ul style="list-style-type: none"> ドリルの出題範囲を指定し、全10回の漢字・計算チャレンジテストを行い平均90%以上の正答率を達成できた。 3つの達成目標(学力)の結果は、「読む・書く」が98%、「計算」が97.1%の達成率であった。 アンケートでは、90%以上の児童が、「授業がよく分かる、楽しい」と回答している。 授業中「進んで発表する、意見を述べる」と回答した児童は、83%であり、発表力・表現力の育成が課題である。 「家庭学習のてびき」を作成し、全校一斉に新たなスタートができた。(●定着・習慣化が課題) 授業研究会を18回実施。教材研究、指導法を工夫し、研究協議の内容も工夫して教師の授業力向上に努めた。 保護者アンケートで、児童の学習状況についての肯定的回答が、児童本人・教師よりも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表力、表現力の育成を校内研修の課題の一つにし、全校で取り組んでいく。 家庭学習がすべての児童に定着できるように、事例を示しながら児童への継続的な指導を行い、保護者へも取組状況を発信し協力をお願いしていく。 児童の意欲的に学習している姿を学校便り、週予定、HPなどで積極的に保護者・地域の皆様に伝えていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が指導力向上のために授業研究をたくさん行っていたのはありがたいのだが、大変にならないよう今後も方法を工夫して行っていただくことが大切。 保護者が、授業の大切さに関心を持つことが重要である。授業参観時には、子どもの学びの様子を参観することに集中すべきである。廊下での私語はよくない。 児童の発言・発表の声がもっとしっかりであるよう継続して指導していただきたい。 学級懇談会の内容の工夫、HPで学校
	授業力を向上させ、学びの質を高める校内研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個人テーマの設定 一人年間2回以上の授業研究の実施 研究協議の充実 会議の精選による授業時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの学び合う姿の状況 授業研究の状況 学力の数値データ 児童アンケート 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降、読書週間の取組(校長会での読み聞かせ、ストーリーテリング、読書時通帳、本の紹介カードの作成、単生の読み聞かせ)等により、図書室利用者も増え、楽しく読書する児童が増えた。 アンケートで「読書が好き、よくなる読書」と答えた児童は、他の項目よりも低く、さらに読書に関心する時間の確保が課題。 週報などで、家庭へ読書啓発も行ったが、保護者は、同僚で80%であり、家で進んで読書する児童が少ないことが分かる。 週報の読書授業の充実により、読書の面白さを学び、実践化が図られることができた。 授業の中で、意見を述べる児童が増え、実践へ繋げることができた。 道徳コーナーを設置し、詩を中心に掲示された。 ●活用については、今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの協力を得て、学習時期に応じた作者や読み物の整備を通して、現在より利用しやすい図書室の環境づくりに努める。 定期的に学級文庫を交替して児童の興味を継続させる。 児童が、主体的に本を手にし読書の楽しさを味わえるよう、目録表を工夫したり、読書週間を活用したりする。 道徳授業の一斉公開の実施、週報等を活用して保護者へ読書の実践状況を発信し、家庭との連携、実践化を図る。 道徳コーナーを全職員で工夫し、内容を充実させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティアの協力を得て、学習時期に応じた作者や読み物の整備を通して、現在より利用しやすい図書室の環境づくりに努める。 定期的に学級文庫を交替して児童の興味を継続させる。 児童が、主体的に本を手にし読書の楽しさを味わえるよう、目録表を工夫したり、読書週間を活用したりする。 道徳授業の一斉公開の実施、週報等を活用して保護者へ読書の実践状況を発信し、家庭との連携、実践化を図る。 道徳コーナーを全職員で工夫し、内容を充実させる。
豊かな心	読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の確実な実施、読み聞かせの充実 読書指導の充実と図書室の活用 家庭読書の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の読書冊数 図書室の貸し出し状況 朝読書、読み聞かせの実施状況 家庭への啓発状況 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降、読書週間の取組(校長会での読み聞かせ、ストーリーテリング、読書時通帳、本の紹介カードの作成、単生の読み聞かせ)等により、図書室利用者も増え、楽しく読書する児童が増えた。 アンケートで「読書が好き、よくなる読書」と答えた児童は、他の項目よりも低く、さらに読書に関心する時間の確保が課題。 週報などで、家庭へ読書啓発も行ったが、保護者は、同僚で80%であり、家で進んで読書する児童が少ないことが分かる。 週報の読書授業の充実により、読書の面白さを学び、実践化が図られることができた。 授業の中で、意見を述べる児童が増え、実践へ繋げることができた。 道徳コーナーを設置し、詩を中心に掲示された。 ●活用については、今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの協力を得て、学習時期に応じた作者や読み物の整備を通して、現在より利用しやすい図書室の環境づくりに努める。 定期的に学級文庫を交替して児童の興味を継続させる。 児童が、主体的に本を手にし読書の楽しさを味わえるよう、目録表を工夫したり、読書週間を活用したりする。 道徳授業の一斉公開の実施、週報等を活用して保護者へ読書の実践状況を発信し、家庭との連携、実践化を図る。 道徳コーナーを全職員で工夫し、内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティアの協力を得て、学習時期に応じた作者や読み物の整備を通して、現在より利用しやすい図書室の環境づくりに努める。 定期的に学級文庫を交替して児童の興味を継続させる。 児童が、主体的に本を手にし読書の楽しさを味わえるよう、目録表を工夫したり、読書週間を活用したりする。 道徳授業の一斉公開の実施、週報等を活用して保護者へ読書の実践状況を発信し、家庭との連携、実践化を図る。 道徳コーナーを全職員で工夫し、内容を充実させる。 	
	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 真剣に考え、意見交流を行い、実践化を図る道徳授業の実施 「彩の国道徳…」の活用 授業内容を家庭に伝える、実践化を呼びかける 「道徳コーナー」の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果 学校における道徳指導の立案・振り返り・確かな実践状況 「道徳コーナー」の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「彩の国道徳…」の活用 授業内容を家庭に伝える、実践化を呼びかける 「道徳コーナー」の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 週報などで、家庭へ読書啓発も行ったが、保護者は、同僚で80%であり、家で進んで読書する児童が少ないことが分かる。 週報の読書授業の充実により、読書の面白さを学び、実践化が図られることができた。 授業の中で、意見を述べる児童が増え、実践へ繋げることができた。 道徳コーナーを設置し、詩を中心に掲示された。 ●活用については、今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの協力を得て、学習時期に応じた作者や読み物の整備を通して、現在より利用しやすい図書室の環境づくりに努める。 定期的に学級文庫を交替して児童の興味を継続させる。 児童が、主体的に本を手にし読書の楽しさを味わえるよう、目録表を工夫したり、読書週間を活用したりする。 道徳授業の一斉公開の実施、週報等を活用して保護者へ読書の実践状況を発信し、家庭との連携、実践化を図る。 道徳コーナーを全職員で工夫し、内容を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内でのあいさつはすばらしいが、立派な保護者などのあいさつがあまりできていない様子は残念。家庭と連携した指導が大切。 彩の国道徳など、授業でやった内容を保護者に知らせ、家でも子どもと一緒に考える機会を作ることも大切。
健やかな体	運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> あてを持って一人一人を伸ばす体育授業の実施 学習カードの活用 業間運動の充実 校庭の整備 すすんで遊ぶ子の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 運動能力テストの結果 なわとび、遊上り、持久走、水泳等の自己記録更新率 児童アンケート 	B	<ul style="list-style-type: none"> マラソンカードを配布し、自主的な運動を奨励したことにより、児童は意欲を喚起し100名を超す児童が完走率を受け取ることができた。 アンケートにおいて、95%の児童が、「体育の時間思い切り運動している」「休み時間外でも遊ぶ」と回答している。 運動する子、しない子の2極化が見られる。 「なわとび」の活用により、児童の意欲を高め、自主的に向かって進んで運動する児童を育てる。 定期的に市内の栄養教諭に本校でも、食育指導をする。 ●反面、給食を残す児童も多く、「給食をしっかりと食べる」と回答した児童は20%にとどまった。 家庭研修会を実施し、教員の連携、学習指導・生徒指導の資料交換と、テーマグループ協議を通して様々な意見交換ができた。 ●「中・小・中」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動する子、しない子の2極化が見られる。 「なわとび」の活用により、児童の意欲を高め、自主的に向かって進んで運動する児童を育てる。 定期的に市内の栄養教諭に本校でも、食育指導をする。 ●反面、給食を残す児童も多く、「給食をしっかりと食べる」と回答した児童は20%にとどまった。 家庭研修会を実施し、教員の連携、学習指導・生徒指導の資料交換と、テーマグループ協議を通して様々な意見交換ができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> マラソンカードの活用などは、子どもが興味を持ってがんばる上で効果的であると思う。 縄跳びのジャンプ台が6台増えているが、楽しく運動し、技術も上達する上で大変効果的であると思う。 給食センターを見学したときに、三小は残量が多いと聞いていた。体にとって大切な栄養であることなどを話しながら、残す児童が少なくなるよう指導していただきたい。 	
	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝、早起き、朝ご飯」の呼びかけ 歯磨き、手洗いの励行 給食指導の充実 養護教諭・栄養教諭との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への啓発 給食を残す児童の減少 朝食欠損児童の減少 児童アンケート 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝、早起き、朝ご飯」の呼びかけ 歯磨き、手洗いの励行 給食指導の充実 養護教諭・栄養教諭との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 運動する子、しない子の2極化が見られる。 「なわとび」の活用により、児童の意欲を高め、自主的に向かって進んで運動する児童を育てる。 定期的に市内の栄養教諭に本校でも、食育指導をする。 ●反面、給食を残す児童も多く、「給食をしっかりと食べる」と回答した児童は20%にとどまった。 家庭研修会を実施し、教員の連携、学習指導・生徒指導の資料交換と、テーマグループ協議を通して様々な意見交換ができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> マラソンカードの活用などは、子どもが興味を持ってがんばる上で効果的であると思う。 縄跳びのジャンプ台が6台増えているが、楽しく運動し、技術も上達する上で大変効果的であると思う。 給食センターを見学したときに、三小は残量が多いと聞いていた。体にとって大切な栄養であることなどを話しながら、残す児童が少なくなるよう指導していただきたい。 	
学校独自	幼・小連携・中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「参観し合う」「理解し合う」「交流する」「続ける」を4つの柱として、ところから進めていく。 連携運営の組織化 相互授業参観の実施 学習指導・生徒指導の話し合いの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 交流の状況(相互参観の状況・話し合いの状況) 相互参観の教師の感想 話し合いの感想 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭研修会を実施し、教員の連携、学習指導・生徒指導の資料交換と、テーマグループ協議を通して様々な意見交換ができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 ●「中・小」互いに授業参観することを実施し、感想を交換することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流を、互いを理解する上で、大切であると思う。 子どもを中学に進学させて、小学校の授業と、中学校の授業の違いに驚いた。ぜひ、先生方も学び合ってほしい。 小学校で学力を身につけ、中学校で伸ばしていただければ、自主学習も無理なくできる子に育つのだと思う。 		

(例) 評価項目「確かな学力」では

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策
				評価	達成状況(成果○・課題●)	
確かな学力	基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の充実 漢字力、計算力チャレンジテストの実施 少人数、TT指導の実施 授業のつまずき解消 家庭学習の習慣づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字・計算チャレンジテスト結果の伸び 「学力3つの達成目標」効果の検証結果 家庭学習の定着、家庭への発信啓発状況 子どもの学び合う姿の状況 	A	<ul style="list-style-type: none"> ドリルの出題範囲を指定し、全10回の漢字・計算チャレンジテストを行い平均90%以上の正答率を達成できた。 3つの達成目標(学力)の結果は、「読む・書く」が98%、「計算」が97.1%の達成率であった。 アンケートでは、90%以上の児童が、「授業がよく分かる、楽しい」と回答している。 授業中「進んで発表する、意見を述べる」と回答した児童は、83%であり、発表力・表現力の育成が課題である。 「家庭学習のてびき」を作成し、全校一斉に新たなスタートができた。(●定着・習慣化が課題) 授業研究会を18回実施。教材研究、指導法を工夫し、研究協議の内容も工夫して教師の授業力向上に努めた。 保護者アンケートで、児童の学習状況についての肯定的回答が、児童本人・教師よりも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表力、表現力の育成を校内研修の課題の一つにし、全校で取り組んでいく。 家庭学習がすべての児童に定着できるように、事例を示しながら児童への継続的な指導を行い、保護者へも取組状況を発信し協力をお願いしていく。 児童の意欲的に学習している姿を学校便り、週予定、HPなどで積極的に保護者・地域の皆様に伝えていく。
	授業力を向上させ、学びの質を高める校内研修の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個人テーマの設定 一人年間2回以上の授業研究の実施 研究協議の充実 会議の精選による授業時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの学び合う姿の状況 授業研究の状況 学力の数値データ 児童アンケート 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降、読書週間の取組(校長会での読み聞かせ、ストーリーテリング、読書時通帳、本の紹介カードの作成、単生の読み聞かせ)等により、図書室利用者も増え、楽しく読書する児童が増えた。 アンケートで「読書が好き、よくなる読書」と答えた児童は、他の項目よりも低く、さらに読書に関心する時間の確保が課題。 週報などで、家庭へ読書啓発も行ったが、保護者は、同僚で80%であり、家で進んで読書する児童が少ないことが分かる。 週報の読書授業の充実により、読書の面白さを学び、実践化が図られることができた。 授業の中で、意見を述べる児童が増え、実践へ繋げることができた。 道徳コーナーを設置し、詩を中心に掲示された。 ●活用については、今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの協力を得て、学習時期に応じた作者や読み物の整備を通して、現在より利用しやすい図書室の環境づくりに努める。 定期的に学級文庫を交替して児童の興味を継続させる。 児童が、主体的に本を手にし読書の楽しさを味わえるよう、目録表を工夫したり、読書週間を活用したりする。 道徳授業の一斉公開の実施、週報等を活用して保護者へ読書の実践状況を発信し、家庭との連携、実践化を図る。 道徳コーナーを全職員で工夫し、内容を充実させる。

◎継続した指導が、基礎・基本の定着の成果に繋がっている。
 ◎授業がよく分かる、楽しいと答える児童が増えている。
 ◎「家庭学習」全学年で着実なスタートができた。
 ●定着、習慣化が課題。
 ●発表する力、表現する力の育成が課題
 ●子どもたちの学校での学びの充実について、実践を保護者に伝え、理解していただくことが必要。

成果
→次年度へ継続

課題
→次年度どのように改善するか、方策を明確にして取り組む

評価 A

意見・要望・支援策等

- 先生方が指導力向上のために授業研究をたくさん行っていただくのはありがたいことだが、大変にならないよう今後も方法等を工夫して行っていただくことが大切。
- 保護者が、授業の大切さに関心を持つことが重要である。授業参観時には、子どもの学びの様子を参観することに集中すべきである。廊下での私語はよくない。
- 児童の発言・発表の声がもっとしっかりできるよう継続して指導していただきたい。
- 学級懇談会の内容の工夫、HPで学校の教育をPRすること等を通して保護者の関心も深まっていくと思う

先行実施の成果

- 目標を絞って行う評価は、これまでの全方位的評価よりも成果と課題が明確に表れた。
- 知・徳・体 + 独自項目4つの項目設定は量的にも適切であった。
- 目標の実現に向けての取組が、具体的であることが、指標設定にもつながり、成果と課題が明確になる。
- 中間評価を入れたことで、全職員で進捗状況を把握することができた。その後、職員のアイデアを積極的に取り入れて、本評価に向けて全員で努力することができた。

成果と課題を次年度に生かす

- 「教師にとって最も重要なことは、子どもに授業で力をつけること」が職員に浸透。
- それぞれの校務分掌の立場で、「課題を解決し学校改善へ」という参画意識が高まってきている。
- 職員の気持ちが一つにまとまっている。

- 教師が大変にならないように（時間確保）
- 学校評価と本年度の重点をしっかりと関連づけることが大切
- 職能を伸ばす計画的指導の大切さを実感



2年目

- 引き続き、授業改善に向けた校内研修の充実を学校経営の中心に据える
- 職員の参画意識をさらに高め、学校評価を活用して、全職員で学校改善を図る

学校経営の重点を学校評価目標と連鎖

現状と課題をしっかりとつかむ（学校評価・研修のまとめ・自分の目）



学校教育目標 「進んで学ぶ 心豊かなたくましい子」

目指す児童の姿 本年度の重点 学校評価に繋がる目標

確かな学力	◎進んで学ぶ子 ・基礎的が学力を身につけている子 ・学び合いの中で自分を高めていく子	授業力を向上し、学びの質を高める	教室を学びの空間として整え、「読む」「話す」「聞く」「計算する」等、学習の基礎事項を、日常指導の中で 確実に身につけさせる 。
			授業力を向上させ、学びの質を高める校内研修を推進し、児童にとって「魅力ある授業」を実現する。
豊かな心	◎心豊かな子 ・思いやりのある子 ・ともに伸びようとする子	豊かな心で人とかわる力をはぐくむ	様々に読書推進活動により、自ら本に親しむ児童を育成する。
			すすんであいさつ、適切な言葉遣い 、礼儀正しい行動が自然にできる児童を育てる。
健やかな体	◎たくましい子 ・基本的な生活習慣が身についた子 ・健康で目標に向かってがんばる子	心身共に健やかな体の育成	食育を推進し、望ましい食習慣の育成を図る
			体育授業の充実、運動の生活化を図ることにより、進んで運動する児童を育てる。

具現化への方策

《24年度の重点》

授業力向上に努め、児童の学びの質を高める。

目 標

教室を学びの空間として整え、「読む」「書く」「話す」「聞く」「計算する」等、学習の基礎事項を、日常指導の中で確実に身につけさせる。

授業力を向上させ、学びの質を高める校内研修を推進し、児童にとって「魅力ある授業」を実現する。

具体的方策

- 学習規律の徹底 **こころ**→**全員**
- 安心して学べる学級集団づくり **担任**
- 教室の言語環境を整える **こころ**→**全員**
- 朝学習の充実 **担任**
- 漢字力、計算力チャレンジテストの実施 **まなび**→**全員**
- 少人数、T T指導の実施 **全員**
- 家庭学習の習慣づけ、内容の充実 **まなび**→**全員**
- 音読指導（発声・音読・朗読） **まなび**→**全員**
- 国語辞典の活用 **まなび**→**全員**
- ブロック学年の学び合い **担任**

- 「考える」→「聴き合う」（「話す」「聴く」）→「学び合う」学習活動の実践 **全員**
- 言語活動の充実 **全員**
- 個に応じた支援の工夫 **全員**
- 系統性のある「ノート指導」
教科主任→**まなび**→**全員**
- 基本となる授業の型 **教科主任**→**まなび**→**全員**
- 「研究主題」にそって、個人テーマを設定し、年間を通して取り組む **まなび**→**全員**
- 研究授業2回以上 **まなび**→**全員**
- 「ステップアップ授業」の公開（月1以上）
まなび→**全員**
- 研究協議の充実 **まなび**→**全員**
- 「学びの窓」（仮称）の発行 **まなび**
（保護者への情報提供・啓発）

どのように、いつ、だれが行うか、具体的方策を決める

具体策

確かな学力

目標1	具体的方策(何を)	具体的方策(どのように)
教室を学びの空間として整え、「読む」「書く」「話す」「聞く」「計算する」等、学習の基礎事項を、日常指導の中で確実に身につけさせる。	学習規律の徹底 （「教室を学びの空間に」再確認）	・「間違えても笑わない」を徹底。 ・一人一人の意見を受け止める。 ・「教室を学びの空間に」を各学級で徹底・継続。
	教室の言語環境を整える	・学校を公的な場として捉え、授業中は丁寧語を使うよう指導を継続する。 ・学活などで、言葉について考える。
	漢字・計算チャレンジ	・1年生ひらがなはなし。100点未満は再チャレンジをして復習に生かす。 ・努力すれば1級がとれることを家庭にも啓発。
	家庭学習	・第1回保護者会で資料を渡す。1年生は3学期から取り組む。 ・1冊終了後、ミニカードを出す。
	音読指導	・音読指導の基本の共有、実践。 ・家庭音読の観点を見直す。月1回、詩なども音読する。ブロック交流で互いに見せ合うことも。
	辞典の活用	・3年から取り組む。 ・4～6年も辞書を持参、常備し活用する。
	朝の学習	・各ブロックごとに、必要な学習を重点的に行う。（音読・視写・話し合い・百マス計算・漢字...）
ブロック学年での学び合い	・生活科、学級活動で交流。（低学年） ・体育、音楽、図工等で交流。（中学年） ・ブロックでの音読発表。（高学年）	

平成24年度 杉戸町では

平成23年度・先行実施校の取組

成果の共有
(学校評価推進委員会・校長会・教頭会)

町内全小・中学校が同じ方法・様式で取り組みスタート

学校・家庭・地域が一体となって、
信頼を基盤とした
魅力ある学校づくりを目指して

杉戸町学校評価システムの推進